

山梨放送

活動名	YBSアナウンサー お出かけおはなし会
実施期間	令和6年12月～令和7年2月
実施回数	会場 3回

【事業実施の成果・課題】

毎年のことだが、この「読み聞かせ」に対する期待が大きいことに驚かされる。終了後に給食をいただく《① こでまりこども園》、園児が手作りした飾りをプレゼントされる《② 豊保育所》、インフルエンザで当日キャンセルも、即日、次回日程を提示して開催にこぎつける《③ 小笠原幼稚園》等、子どもたちが楽しみしていた様子が伺えた。地方局にとって「読み聞かせ」は、社会・地域貢献の重要コンテンツだと再確認した。

<第1回：こでまりこども園>

園に自身の子どもを預けている水越アナが「りっちゃんママだよー」と自己紹介したところ、子どもたちとの距離が一気に縮まり、アナウンサーという存在を身近に感じてもらうことができた。

<第1回：こでまりこども園>

開催後、園側から「子どもたちがどんな食事をしているのか伝えたい！」と、自慢の“給食”を提供された。食事をしながら保育士の皆さんと様々な情報交換もでき、貴重な経験となった。

3回の開催とも、事前に何冊かの候補本を挙げて、担当保育士さんと相談。その園には置いていない、かつ、過去開催時の園児の反応なども参考に本を選んだ。⇒（上記に絡み）本の選定は、事業責任者の櫻井が各園と相談して決めているが、経験上、園児の反応・ウケが良かった絵本はそのままに（例：「おじいちゃんの～」や「ねえ、どれがいい？」）、今年度、新規購入した5冊ほどを読み聞かせた。その結果、園児だけでなく、読み手のアナウンサーも新鮮な気持ちで取り組めた。

<新人アナウンサー2人>

今田 舞、奥田歩美を起用したところ、「子どもたちが夢中になっている様子が嬉しかったし、その笑顔に癒された。

“アナウンサーになったんだ”という実感も湧いたし、今まで以上に山梨県民のために伝えたいという想いが強くなった」と話していた。この『読み聞かせ』が、子どもたちだけでなく、関わる大人たちをも成長させるという事を改めて実感した。

<第3回：小笠原幼稚園>

子どもが大人数になり広い会場での開催となったため、後列の子どもにも絵本が見えるように『プロジェクター』を使用した。が、弊社は持ち出し可能な『プロジェクター』を保有していない為、園が所有するモノをご厚意でお借りした。

⇒一方で、担当アナや先生方からは以下のような意見も。

＜水越千尋アナウンサー＞

よほどの大人数でない限り、「プロジェクター」などを使用しない方が、絵本を通じた“密な”コミュニケーションが取れると感じた

＜第2回：豊保育所の先生から＞

大型絵本があってもよかった。また、もっと距離が近くなるので、机が無くてもよかったなと感じた。

＜第2回：豊保育所の先生から＞

大型絵本があってもよかった。また、もっと距離が近くなるので、机が無くてもよかったなと感じた。

◆保育士の気になる絵本・読んでほしい絵本◆

・グリム童話や日本昔話など、昔からある絵本 ・アナウンサー関係の絵本 （アナウンサーとは？早口言葉など）・はやくちちょこれいと ・もこもこもこ ・ねこのピートシリーズ ・はらぺこあおむし・14匹のねずみシリーズ ・おいしいのぼうけん ・こんたのおつかい ・おまえうまそうだなシリーズ・かいじゅうたちのいるところ ・いっきよくいきまあ〜す（長谷川義史：作）――

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

＜櫻井和明アナウンサー 第1回・こでまりこども園／第3回：小笠原幼稚園に参加＞

- ・毎年、新人を含む若手アナウンサーを参加させているが、前日まではしっかり緊張し、当日は各々で工夫を凝らした読み聞かせをしている姿を見て、成長を感じている。アナウンス部長という立場でいえば、「子どもたちのため、と言いながら、結果、アナウンサーとして学ばせてもらえる場でもあるのだ」と再認識した。
- ・目を輝かせながら読み聞かせに夢中になっている園児の様子、始まりと終わりに声を揃えて元気に挨拶してくれる子どもたちの姿が印象的だった。

＜水越千尋アナウンサー 全3回参加＞

- ・普段、自身の子に読み聞かせを行うときに意識している「対話」を心がけた。大人数を前に、絵本がよく見えるよう左右に傾けながらしっかり絵を見せたほか、読み手として、聴き手の1人1人の顔を見るよう意識した。幸い絵柄もわかりやすく本の大きさも小さいものはなかったので、問題なく見えていたようだった。
- ・年少（3歳児）、年中（4歳児）、年長（5歳児）と学年ごとに読み聞かせを行ったが、わずか1学年の差で、子どもたちの反応や興味の対象が違うことに気が付いた。年少は、問いかけなどを行いながら絵本の世界に巻き込むと楽しそうだった。年中は、物語の先読みやオチの予測ができるようで、予想外のストーリーや、次のページを開いた瞬間にインパクトがあるようなお話を楽しそうに聞いていた。年長はぐっと集中力が高まるのと、問いかけに答えるのに恥ずかしさも出てくるようなので、しっかりとしたストーリーがあるものもいいのではないかと思った。

⇒今回、全学年を通してほぼ同じ本のラインナップで読み聞かせを行ったので、このような反応の違いなどを感じることができた。何歳の子どもでも楽しみやすい“テッパン”の本や、季節感のあるものは今後も積極的に選びつつ、年齢を見極めながら本を選べば、より楽しんでもらえるのでは？

＜今田舞アナウンサー 全3回参加＞

- ・同じ本でも、聞き手の子どもたちの年齢によって盛り上がる部分が全く違ったのが面白かった。学年が一つ違うだけで聞き方も大きく変わるということに気づき、子どもの成長速度の速さに驚かされた。
- ・教室によって、子どもたちと近い距離で読み聞かせができるところと、かなり離れているところがあったが、距離が近い方がぐっと絵本に集中してくれている印象だった。次回は読み手と聞き手の距離感も考えて伝え方を工夫したい。
- ・子どもたちが理解しやすいようゆっくり読むと間延びして飽きてしまい、早すぎると理解が追い付かないので、ちょうどいいテンポを模索しながら読んだ。読み手が、顔と声に表情をつけて楽しそうに読むと、子どもたちにも楽しさが伝染していったように感じたので、自分自身が絵本にのめりこむことが大切だと学んだ。子どもたちが楽しそうに笑いながら聞いてくれるとこちらも嬉しく、癒しの時間となった。

＜奥田歩美アナウンサー 第1回：こでまりこども園 / 第2回：豊保育所に参加＞

- ・初めての読み聞かせでしたが、「相手を巻き込む伝え方」という、アナウンサーとして大切なことを子どもたちから学ばせてもらいました。例えば、どれだけ面白い本であっても、2冊目、3冊目になると疲れが出て集中力が途切れてしまう子どももいました。そこで、絵本「ねえ、どれがいい？」では、「みんなはどれがいいかな？」と問いかけたり、「どうして？」とその理由を聞いたりしながら進めました。「一方的に伝える」のではなく「一緒に考える」という体験を通して、最後まで飽きずに楽しんでもらえたと思います。この経験を「読み聞かせ」以外でも活かし、相手を巻き込む空気づくりを大切にしていきたいです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜第1回 こでまりこども園 園長：佐藤陽子先生まとめ＞

＜2歳児（ジャズミンクラス）＞

- ・声がきれいで、言葉に感情が乗っている話し方だったこともあり、子どもたちも食い入るようによく見ていた。
- ・正しくきれいな発音で絵本の読み聞かせをして頂けたことは、子どもたちにとって貴重な体験になった。
- ・大人が聞いていても、絵本の世界に引き込まれるようで楽しい時間だった。
- ・おはなし会と一緒に参加でき、心温まる素敵な時間を過ごすことが出来ました。

＜3歳児（ローズマリークラス）＞

- ・アナウンサーの方と一緒に声を出して参加できていた姿が、楽しそうで良かった。子どもたちがアナウンサーの方とのやりとりを楽しんでいた。
- ・ページ数が多い絵本だったが、子どもの興味に合う内容で、楽しめていた。
- ・子どもたちから、「面白かった」「楽しかった」と話す姿が見られ、友だちと『読み聞かせごっこ』を行っていた。

< 4 歳児（フェネルクラス） >

- ・探求心や、興味・関心を引き出す内容で、子どもたちも考えながら、楽しくお話を聞いていた。
- ・抑揚、声色、発声が物語のキャラクターに合っていて内容がより入ってきた。また、子どもたちと一緒に絵本を楽しむ空間があり、私たちも学ぶことができた。
- ・迎えに来た保護者の方に、おはなし会について話している姿がとても楽しそうだった。

<第 2 回 豊保育所 所長：中込久美子先生まとめ>

<子どもたちの感想（年少クラス） >

- ・楽しかった。 ・お姉さんたちが可愛かった。
- ・またきてほしい。 ・サンタに会いたくなっちゃった。サンタさんいつ来るかなあ…。

<保育士の感想>

- ・子どもたちが夢中になって見ている姿が印象的でした。おじいちゃんの絵本は保育所にもあるので、どのような反応を子どもたちが示すのか、私たちも楽しみでした。想像以上に盛り上がり、教室に戻ってからも「ひいひい…」と、子どもたちの世界の中で盛り上がって楽しんでいました。
- ・3 人のアナウンサーの方々が子どもたちの反応に適宜寄り添いながら読み進めてくれたので、絵本の世界に入り込んで楽しむことができました。とても聞き取りやすい読み方で、職員も学びになりました。

<年中クラス（保育士の感想） >

- ・ご飯の絵本を見て「お腹空いた」とご飯が食べたくなる子や、「朝は何を食べてきた」などの会話が盛り上がりました。
- ・クリスマスの時期ということもあり、「100 にんのサンタクロース」の絵本を食い入るように見ている。色々なサンタの登場に喜び、自分のところにはどんなサンタがくるのか楽しみにしていた。
- ・「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」は遅番クラスの部屋に同じ絵本があるので、「今日見た絵本あったよ」と数人の子が教えてくれた。終了後、お部屋でも「ひいひいおじいちゃん」と連呼していた。
- ・アナウンサーの方々が素敵で「かわいい♡」と盛り上がり、集中していた。
- ・優しくきれいな声で絵本を読んでもらった、子どもたちが前のめりで絵本を見ているのが印象的だった。
- ・3 冊とも、見やすいハッキリした絵であったので、お話の時間を楽しんでいた。
- ・声のトーンや活舌がよく、お手本にしたいと思いました。優しい雰囲気がよく、ゆったりとした時間が流れ、大人や子どもも癒されました。

<年長クラス（子どもたちの感想） >

- ・おじいちゃんのおじいちゃん、というところがおもしろかった。
- ・100 人のサンタさんがいておもしろかった。
- ・とても楽しかった。すごかった。
- ・同じ絵本が部屋にあり、取り出して友達とまた楽しんだ。
- ・読んでいるお姉さんがかわいかった。声がきれいだった。

＜保育士の感想＞

- ・とても聞きやすく、子どもたちを惹きつける素敵な話し方でした。
- ・知っている本もありましたが、知っているからより楽しめることもできました。
- ・中には難しいと思う本もありましたが、子どもたちがとても集中していて驚きました。
- ・今回の絵本を、もう 1 度、子どもたちに読んであげたいと思います。

＜第 3 回 小笠原幼稚園 事務・鶴田有道さん まとめ＞

＜子どもたちの感想＞

- ・「キャベツくん」は、キャベツがクジラ、ゴリラ、ライオンに変身したのが面白かった。
(年長児・女の子)
- ・「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」は、「ひいひいひい」が 100 個くらいたくさん出てきて大変そうだったけど、とっても楽しかった。(年長児・男の子)

＜先生たちの感想＞

- ・お部屋に戻ってからも、「ひいひいひいひい」言っていたくらい、とても印象的で楽しかったようです。私たちも毎日のように絵本や紙芝居の読み聞かせをしています。読み方や、人物になりきっているところなど、さすがアナウンサーの方だと思いました。とても聞きやすく参考になりました。
- ・「ぼくはイーサヨー まかせていーさよ」は、お話に甲州弁や山梨の果物が出てきたので親しみを持って見ることができました。絵もカラフルで目でも楽しむことができました。年長組は 3 月の卒園を前に良い思い出ができました。ありがとうございました。